英語11　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書く

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文１文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	７時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

＜解答欄＞　※半角で入力してください

例	Mei got up at seven.
①	
②	

出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

「書くこと」の目標にある、まとまりのある文章を書いたり、聞いたことや読んだことについて書いたりするためには、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、書くことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。そのためには、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くことが求められる。

英語11では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題とした。

設問①

趣旨

不規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における目標・内容

書くこと

ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

■評価の観点

知識・技能

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
11	①	1	不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	45.7	◎
		2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	8.7	◎
		3	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	5.0	○
		4	不規則動詞の過去形を用いているが、主語に誤りがあるもの	1.0	
		5	不規則動詞の過去形を用いているが、be 動詞と混在しているもの	0.4	
		6	不規則動詞の過去形を用いているが、語順に誤りがあるもの、または不要な語があるもの	0.9	
		7	不規則動詞の過去形を用いていないが、過去のことを表現しようとしているもの	1.3	
		8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの	18.8	
		9	be 動詞と一般動詞が混在しており、どちらも過去を表す形になっていないもの	1.0	
		10	want を用いて解答しているもの	1.7	
		11	類型 10 までとは異なる誤りがあるもの	12.7	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	0.4	
		0	無解答	2.5	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 59.4%である。与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く本問では、不規則動詞の過去形（went）を理解し、その知識を活用して書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型８の反応率が 18.8%、解答類型 11 の反応率が 12.7%と高い。

○　解答類型１の例

・Mei went to the park.　　・She went to the park.

解答類型１に該当する生徒は、不規則動詞の過去形（went）を用いて正しい語順で書くことができている。このことから、不規則動詞の過去形（went）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Mei went to the park（ピリオドなし）・mei went to the park.　・Mei went to the Park.

解答類型２に該当する生徒は、大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、不規則動詞の過去形（went）を用いて正しい語順で書いている。このことから、不規則動詞の過去形（went）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・Mei went _ the park.　　・Mei went to in the park.　・Mei went to tha park.

解答類型３に該当する生徒は、余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、不規則動詞の過去形（went）を用いて正しい語順で書いている。

○　解答類型４の例

・I went to the park.　　・We went to the park.

解答類型４に該当する生徒は、主語を正しく書いたり、示された状況における主語を選択したりすることに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Mei was went to the park.　　・She is went to the park.

解答類型５に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いており、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・Mei went to go to the park.　・Mei went go to the park.

解答類型６に該当する生徒は、不要な語があるなど、正しい文構造で書くことに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・Mei wents to the park.　　・Mei was go to the park.

解答類型７に該当する生徒は、与えられた状況について、過去のことについて書くことは理解しているが、動詞を正しく活用することに課題があると考えられる。

○　解答類型８の例

・Mei go to the park.　　・Mei is going to the park.　　・Mei goes to the park.

解答類型８に該当する生徒は、正しい語順で書くことはできているが、与えられた状況について、過去のことについて書くことを理解できていない、あるいは go の過去形が went であることを理解できていないと考えられる。

○　解答類型９の例

・Mei is go to the park.　　・Mei is goes the park.　　・I am go to in the park.

解答類型９に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いていたり、過去のことについて書くことを理解していなかったりするなど、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型 10 の例

・Mei want to the park.　　・Mei wants to park.　　・Mei want to go to the park.

解答類型 10 に該当する生徒は、went と want を混同していると考えられる。

○　解答類型 11 の例

・Mei going to the park.　　・Mei been to the park.　　・Mei is the park

解答類型 11 に該当する生徒は、書くべき内容を理解できていない、あるいは「主語＋動詞」という文構造が理解できていないと考えられる。

設問②

趣旨

規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における目標・内容

書くこと

ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

■評価の観点

知識・技能

1．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
11	②	1	規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	40.6	◎
		2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	9.2	◎
		3	余分な語などの誤りがあるが、規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	3.5	○
		4	規則動詞の過去形を用いているが、主語に誤りがあるもの	1.3	
		5	規則動詞の過去形を用いているが、be 動詞と混在しているもの	1.5	
		6	規則動詞の過去形を用いているが、語順に誤りがあるもの、または不要な語があるもの	0.3	
		7	規則動詞の過去形を用いていないが、過去のことを表現しようとしているもの	2.9	
		8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの	14.8	
		9	be 動詞と一般動詞が混在しており、どちらも過去を表す形になっていないもの	2.5	
		10	類型９までとは異なる誤りがあるもの	20.1	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	0.5	
		0	無解答	2.9	

（N= 861,464 人）

2．分析結果と課題

○　正答率は 53.3%である。与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く本問では、規則動詞の過去形（played）を理解し、その知識を活用して書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型８の反応率が 14.8%、解答類型 10 の反応率が 20.1%と高い。

○　解答類型１の例

・Mei played tennis.　　・She played tennis.

解答類型１に該当する生徒は、規則動詞の過去形（played）を用いて正しい語順で書くことができている。このことから、規則動詞の過去形（played）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Mei played tennis　（ピリオドなし）　・she played tennis.

解答類型２に該当する生徒は、ピリオドの付け忘れや大文字・小文字の書き分けの誤りがあるが、規則動詞の過去形（played）を用いて正しい語順で書いている。このことから、規則動詞の過去形（played）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・Mei played the tennis.　　・Mei played a tennis.

解答類型３に該当する生徒は、余分な語などの誤りがあるが、規則動詞の過去形（played）を用いて正しい語順で書いている。

○　解答類型４の例

・I played tennis.　　・We played tennis.

解答類型４に該当する生徒は、主語を正しく書いたり、示された状況における主語を選択したりすることに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Mei was played tennis.　　・Mei were played tennis.

解答類型５に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いており、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・Mei does played tennis.　　・Mei went to played tennis.

解答類型６に該当する生徒は、不要な語があるなど、正しい文構造で書くことに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・Mei plaid tennis.　　・Mei plaied tennis.　　・Mei was play tennis.

解答類型７に該当する生徒は、与えられた状況について、過去のことについて書くことは理解しているが、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型８の例

・Mei play tennis.　　・Mei will play tennis.

解答類型８に該当する生徒は、正しい語順で書くことはできているが、与えられた状況について、過去のことについて書くことを理解できていないと考えられる。

○　解答類型９の例

・Mei is play tennis.　　・Mei is plays tennis.

解答類型９に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いていたり、過去のことについて書くことを理解していなかったりするなど、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型 10 の例

・Mei playing tennis.　　・Mei went to tennis.　　・Mei is tennis.

解答類型４に該当する生徒は、書くべき内容を理解できていない、あるいは「主語＋動詞」という文構造が理解できていないと考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）場面や状況から活用すべき文法事項などを判断させる

正確に書くことができるようにするためには、場面や状況から活用すべき文法事項などを判断することが重要である。英語11では「留学生のメイが行った場所」と「メイがしたこと」を書くという場面や状況から、誰が何をしたという主語と動詞がある文で書く必要があることを判断したり、「昨日の出来事」を書くということから、動詞の過去形を用いて書くことを判断したりすることが大切である。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

・ある場面と関連付けて文法事項などを活用して英語を書き、いつ使えるかなど使い方を把握する活動
・短い文章を読み、文章の時制が過去形で書かれているのか、現在形で書かれているのかを整理する活動

（２）関連のある文法事項をまとめて整理する

正確に書くことができるようにするためには、既習の文法事項などを適切に使い分けて表現することが重要である。そのためには、新しい文法事項などを扱ったり、言語活動を行ったりする際に、関連のある文法事項をまとめて整理し、違いを理解することが大切である。例えば、現在進行形の特徴やきまりを学習する際には、現在形との違いを整理して使い分けたり、to 不定詞の特徴やきまりを学習する際には、動名詞との違いを整理して使い分けたりさせることが考えられる。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

・既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動
・ある特定の場面を設定し、適切な表現を選択して書く活動

（３）I、you 以外の主語を用いて書く指導を行う

文章を書く際には、“I” “you” を用いて自分や相手のことについて書くだけではなく、“I” “you” 以外の主語（we、he、she、it、they、人物名、固有名詞など）を用いて、事実を伝えたり、状況を説明したりする文を書くことが重要である。

そのため、書く指導を行う前に、英語で書かれた文章を読ませ、何が主語で何が動詞であるかなど、「主語＋動詞＋補語」などの文構造を意識させ、“I” “you” 以外にも様々な表現が主語になっていることに気付かせることが考えられる。その上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、適切な主語は何かなどを考えて、「主語＋動詞＋補語」などの文構造を意識して文章を書かせることが考えられる。また、“I” “you” 以外の主語を用いて書く指導だけではなく、話す活動も併せて行うことが大切である。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

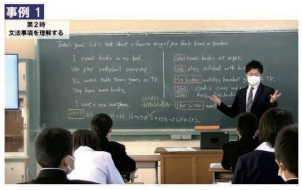
・先週末にしたことについて日記を書く活動
・夏休みの思い出について紹介する文章を書く活動
・絵や写真の状況を説明する活動
・調べたことについて説明をしたり、報告をしたりする活動
・場所やものなどの特徴を紹介する活動

〇関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

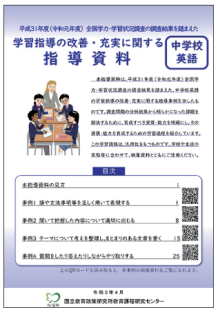
・中学校英語指導事例集（令和３年４月）

「語や文法事項等を正しく用いて表現する」

映像資料

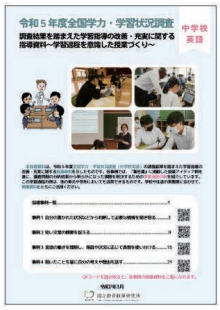


指導資料



・中学校英語指導事例集（令和７年３月）

「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」

映像資料

指導資料